

民主主義はまだ？

毎年、甘い香りで秋祭りが近づいたことを知らせてくれる木犀の開花が松山では一ヶ月遅れた。気候変動の影響だろうと言われている。

コロナ禍で車の台数が一段と増え地球温暖化に拍車がかかり始めた。低いのは投票率だけでなく全体に占める女性議員は465人中45人、僅か9・7%と回までの166位から後退することになった。世界では前回までの166位から後退することは必至だろう。ジェンダー議論もこれまでの先進国家の最低レベル120位を更に下回ると思われる。

四国では17名の衆院議員がありが女性は一人もいなかつた。それでも風穴を開けたいと切実な市民の声を受け長年JAL争議の支援をして下さっている元香川県議の白川容子さんが立候補されると聞き勝手連のお手伝いをすることになった。

(裏面に続く)

JAL不当解雇撤回争議団
松山市在住 林 恵美

JAL愛媛原告を支える会

あの空へ ニュース 帰ろう

発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館 3F 愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526



私も
応援
します

人生の転換点を、社会の転換点に
福島第一原発事故・損害賠償愛媛訴訟原告団
渡部寛志

JAL不当解雇撤回争議、私はその具体的な内容をほとんど知りません。このコーナーの執筆依頼を受けて、自らの記憶が2011年3月11日でストップしていること、JALの経営破綻・リストラ騒動を漠然と覚えていただけであることに気付きました。

自分の事、自分たちの事で頭が一杯だったのです。私たちは、東京電力の原発によって、生きる場を奪われ、職を奪われ、家族離散し、コミュニティを壊されました。先を見通せ

ず、未来を描げず、さまよい続けました。悔しさの余り、国と東電を相手に裁判を起こしました。今も解決には程遠く、国は自らに事故責任は無いと言い続け、東電は十分な賠償を済ませたと言い張っています。

私は、JAL不当解雇撤回争議のこれまでの経緯を聞き、学び、他人事とは思えない共通点を知りました。それは、JALも東電も口先だけである事です。「早期に解決したい（JAL）」、「早期に生活再建の第一歩を（東電）」などと言いつつ被害

者と争い、事態を長引かせています。そして、国が直接的・積極的に問題解決に関与しようとしないことも一緒です。

一方的に強制的に人生の転換を迫った二つの出来事は、解決せぬまま10年以上の年月が流れています。私たちは、『限られた人生の大切な時』を失いながらも、なお闘い続けています。

『痛み』を受けた人々の願いを受け止めることが出来る社会へ向かって、共に進んでいきましょう。



9月22日 快晴のもとでの県庁前宣伝



10月20日 J R松山駅前宣伝

選挙結果は「ゆ党」と言われる候補者に持つて行かれたが新しい仲間との運動は楽しくこれらの希望に繋がるものだつた。しかし、初めての選挙運動は公職選挙法による制約が多く、どう首を捻つても納得できないと感じることが多すぎた。



K.公示後は、白川さんは比例候補のため個人名や政党名を幟やプラスターで掲げることもできずメガフォンで訴えるのみ等。せめて写真でアピールしようとしたらシルエットしか認められない。供託金の高さも驚くばかりだ。先進国ではゼロのは公職選挙法による制約が多く、所もあるがせいぜい数十万円の範囲だ。朝から晩までの運動のきつさと合わせてこれでは女性



議員が増えない訳だ。女性の声を政治に反映させるには女性の生きづらさを肌身で感じている女性議員を増やすことがどうしても必要だ。選挙制度が変わることも待ってはいられない。

市民一人ひとりが主権者意識を高め日頃から話題にし、運動することが民主主義を発展させていく原動力になると信ずる。女性議員を増やすのはその指標でもある。

民主主義の発展、即ち社会の意識レベルを上げて行くためには政治を監視し、不正義とは闘う姿勢が大切だ。J A L争議はその一端を担っている。